

令和6年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

本校は昭和 51 年の創立以来、生徒一人ひとりを大切にす学校、地域に愛され、信頼される学校をめざしてきた。その伝統を受け継ぎながら、さらに生徒のニーズや保護者の期待に応える学校となることをめざす。具体的には、次の三つに重点を置く。 【1】生徒の自己実現を最大限に支援する学校 【2】すべての生徒が安全・安心に生活できる学校 【3】地域としっかり連携して生徒を育てる学校 人権教育をベースとした系統的なキャリア教育を行うとともに、きめ細かな学習指導、生徒の安全・安心につながる生徒支援を教職員が一丸となって行い、生徒や保護者に「野崎高校に入学してよかった」と心から言ってもらえるような学校づくりを行う。

2 中期的目標

1 生徒の自己実現を最大限に支援する学校づくり (1) 生徒の「学ぼうとする力」を育成する ア 観点別学習状況の評価を活用するとともに、計画・実践（指導）・評価・改善という一連の活動を繰り返すことにより授業改善および見直しを行う。また、校内における教員相互の授業見学、初任者研修・10 年経験者研修等による公開授業・研究協議への参加や、大阪府教育センター等で実施される研修・研究授業等に参加することで、教員の「授業力」を向上させる。 イ ますます多様化する家庭環境の変化等を含む様々な課題を抱える生徒に対して一人ひとりの教育的ニーズを把握するため、SC・SSW・居場所スタッフ等外部人材を積極的に活用し、連携しながら生徒の自己実現を支援する。また、必要に応じて地域の関係機関等とも連携を図るとともに、本校生徒の様々な学習活動の場として、メンタル面から支援する居場所カフェの継続、図書室の有効的活用を図る。 ウ 本校生徒にとっての「わかる授業」「できる授業」をめざし、きめ細かな学習指導・ICT 機器を効果的に活用した授業形態や授業方法を工夫改善する。 ※令和 8 年度までに、生徒授業アンケートの①「授業内容に興味・関心を持つことができた（興味関心）」と②「授業を受けて知識や技能が身に付いた（知識技能）」について、回答ポイント（満点 4.0）を 3.25 以上にする。（①R3：3.23,R4：3.13,R5：3.22 ②R3：3.27,R4：3.16,R5：3.23） ※令和 8 年度までに、生徒向け学校教育自己診断の①「授業は分かりやすい」と②「自分は授業にまじめに取り組んでいる」について、肯定的回答率を①70%以上・②80%以上を維持する（R3：78.6%,R4：67.3%,R5：71.0% ②R3：82.8%,R4：79.2%,R5：76.1%）。 (2) 自主性・自立性を育成するキャリア教育の推進 ア 生徒の社会的・職業的自立に向け、チャレンジ精神を持って進路を切り拓く実践的な態度を育成できる、3 年間を見据えたキャリア教育の計画と実践に取り組む。 イ 地元企業・各種企業団体と協力した職場見学・インターンシップ、大学・短大・専門・専修・各種学校等と協力した学校見学や体験入学、各種業者による体験セミナー等に参加する機会を増やすことで、生徒の進路意識の向上を図る。 ※毎年度において、学校幹旋による就職内定率 100%と、理由のない進路未決定者 0 名をめざす。 ※年 1 回のインターンシップを実施。 ※令和 8 年度までに、生徒・保護者向け学校教育自己診断の「きめ細やかな進路指導がなされている」について、肯定的回答率をともに 80%以上にする（生徒 R3：78.2%,R4：75.1%,R5：78.0% 保護 R3：82.8%,R4：79.5%,R5：80.8%）。	
2 すべての生徒が安全・安心に生活できる学校づくり (1) ますます多様化する家庭環境の変化等を含む様々な支援の必要な生徒に対して、生徒一人ひとりの状況や教育的ニーズに応じた、きめこまやかな教育相談・教育支援の体制を構築することにより、困り感を抱える生徒の早期発見および早期対応につなげ、問題事象の発生や不登校、中途退学につながることを防ぐ。 (2) 家庭や地域と連携した遅刻指導、服装・頭髪指導、挨拶・マナー指導等を実施するにあたり、その問題行動の背景にある要因を多面的かつ的確に把握するとともに、カウンセリングマインドを持って行い、生徒の規範意識や自律心を育成する。 (3) 人権教育や総合的な探究の時間等の取組みを充実させ、他人を思いやる豊かな心や人権尊重の精神を育成する。 (4) HR 活動、生徒会活動、部活動、学校行事等において生徒が主体的に参加・行動する取組みを進めることで、生徒の自尊感情や自立心を育成する。 (5) 校内防災体制の整備充実と、卒業後を見越した生徒の健康増進を図る取組みを進める。 ※令和 8 年度までに、生徒向け学校教育自己診断の①「マナーや校訓を守っている」②「頭髪・服装指導は適切である」③「遅刻指導・授業遅刻指導は適切である」④「野崎高校へ入学してよかった」について、肯定的回答率を①90%以上・②70%以上・③80%以上・④80%以上にする。 (①R3：92.0%,R4：89.2%,R5：90.6% ②R3：59.2%,R4：56.2%,R5：57.3% ③R3：71.1%,R4：62.6,R5：67.8% ④R3：82.0%,R4：73.7%,R5：76.9%) ※令和 8 年度までに、生徒向け学校教育自己診断の「野崎高校は一人ひとりが大切にされている」について、肯定的回答率を 80%以上にする。（R3：76.5%,R4：60.7%,R5：70.2%） ※令和 8 年度までに、生徒向け学校教育自己診断「相談できる教員は担任以外にもいる」の肯定的回答率を 80%以上にする。 (R3：77.4%,R4：74.0%,R5：77.3%) ※令和 8 年度までに、生徒向け学校教育自己診断の①「学校はいじめ・差別に対して適切に指導している」②「人権や命の大切さについての教育が行なわれている」について、肯定的回答率を 85%以上にする（ ①R3：84.0%,R4：75.3%,R5：77.6% ②R3：88.6%,R4：84.5%,R5：84.3%）。 ※令和 8 年度までに、生徒の部活動の加入率を 30%以上にする（R3：27.9%,R4：26.2%,R5：27.1%）。 ※令和 8 年度までに、生徒向け学校教育自己診断「学校へ行くことが楽しい」の肯定的回答率を 75%以上にする。（R3：70.9%,R4：62.3%,R5：65.1%） ※年 2 回以上、保健所との連携による健康増進にかかる取り組みを実施。	
3 地域としっかり連携して生徒を育てる学校づくり (1) 従来から実施されている各種地域連携行事に、本校生徒・教職員が今後も継続的に参加できる校内体制を整備する。 (2) 本校が中心となった地域連携行事を企画・実施する。 ア 近隣の保育所・幼稚園、小学校、中学校、高等学校の児童生徒と本校生徒が交流する機会を設ける。 イ 地元の保育所、小・中学校、高等学校、大学等の教職員と本校教職員が交流する機会を設ける。 ウ 大東市、市内中学校、大阪産業大学と「合同事業」を実施し、本校生徒・教職員の魅力を発信する。 (3) 本校生徒の活動の様子や学校の取組みを積極的に発信する広報体制を確立する。 ア 本校ウェブページの学校ブログ等を定期的に更新することで、最新の情報を中学生、保護者、地域住民等に伝える。 イ 中学校への広報活動を充実させることで、本校志願者の確保に努める。	
4 教職員の働き方改革推進 (1) すべての教職員が、担当業務についての必要性と効率化を常に意識する習慣を持つことを全校的に推進する。 ※令和 8 年度までに、教員一人平均の月当たり時間外勤務を 25 時間以内にする（R3：28.6 時間,R4：25.9 時間,R5：24.9 時間）。	

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 6 年 12 月実施分〕	学校運営協議会からの意見
（１）全般的に ① 生徒向け（25 項目）、②保護者向け（23 項目）の診断結果を肯定的回答率で分類すると、70%以上の項目については、生徒 20（R 5：18）項目、保護者 18（R 5：15）項目で一定評価されている。また、生徒向けおよび保護者向け回答において昨年度と比較し、5 ポイント以上上昇した項目が生徒 10（R 5：5）項目、保護者 10（R 5：4）項目あった。 ② 50%以下については、生徒「ホームページ・ブログなどで学校の情報をみている」が 3.5 ポイント上昇したものの 46.7%であった。 ③教職員向け（27 項目）診断結果のうち肯定的回答率 90%以上の項目が 10（R 5：2）項目となった。特に「校長は自らの教育理念や学校運営について考え方を明らかにしている」「担任は生徒指導において家庭との連携を密にしている」「本校は学校の情報をブログ・HP・保護者向け郵送物などを活用して随時伝えている」の 3 項目は 100%であった。 【生徒】「野崎高校では一人ひとりが大切にされている」で 6.5（R 5：9.5）ポイントの上昇が見られたことから、本校の教育活動が少しずつ浸透してきており、一定の評価に繋がっていると考えられる。今後に向けて、さらに推進していく必要がある。 ○以下では、肯定的回答率が 50%台の項目と、前年より大きく変化のあった項目を中心に考察する。 （２）肯定的回答率が 50%台以下の生徒向け項目 昨年度 4 項目から 2 項目に減少 ・「校舎内の清掃が行き届いている」 （R 3：51.7% → R 4：45.4% → R 5：56.1% → R 6：58.1%） 校舎の老朽化が進んでいるものの、きめ細やかな清掃指導の成果と考えられる。次年度も更なる学校美化に向け、引き続き清掃指導を推進していく。 ・「ホームページ・ブログなどで学校の情報をみている」 （R 3：54.9% → R 4：41.3% → R 5：43.1% → R 6：46.7%） 気象状況や電車の遅延による始業時刻の変更などの連絡が緊急で出されたこともあったため、今後に向けて生徒により一層周知していく必要がある。 （３）前年度より大きく上がっている項目（5 ポイント以上） 【生徒】 昨年度 5 項目から 10 項目に増加 「野崎高校へ入学してよかった＋6.9P」「頭髮・服装指導は適切である＋8.0P」「遅刻指導・授業遅刻指導は適切である＋5.0P」「担任は親身になって相談や悩みに応じてくれる＋10.0P」「相談できる教員は、担任以外にもいる＋5.1P」「体育大会は楽しい＋8.8P」「文化祭は楽しい＋10.7P」「野崎高校では一人ひとりが大切にされている＋6.5P」「学校は 1 人 1 台端末を効果的に活用している＋11.8P」「LS を通して自分の成長を感じることができた＋9.6P」 【保護者】 昨年度 4 項目から 10 項目に増加 「校舎内の清掃が行き届いている＋21.1P」「頭髮・服装指導は適切である＋11.6P」「きめ細やかな進路指導がなされている＋5.7P」「担任は親身になって相談や悩みに応じてくれる＋7.8P」「相談できる教員は、担任以外にもいる＋5.6P」「子どもは体育大会は楽しかったと話している＋8.7P」「子どもは文化祭は楽しかったと話している＋7.0P」「子どもは遠足は楽しかったと話している＋9.3P」「野崎高校では一人ひとりが大切にされている＋11.2P」「学校は 1 人 1 台端末を効果的に活用している＋9.4P」 （４）前年度より大きく下がっている項目（5 ポイント以上） 【生徒】 昨年度同様 5 P 以上下がった項目は無し。 【保護者】 昨年度 6 項目から 4 項目へ減少 「子どもは授業にまじめに取り組んでいると話している－13.0P」 「子どもはマナーや校訓を守っている－17.3P」「子どもは自分が希	第 1 回（7 / 4） ○令和 6 年度学校経営計画及び学校評価について ・やはりまずは登校させることが大事。その方法を考えていきたい。 ・始業時間の再考など、取り組みの検討を。 ・朝のショートホームルームでは、何らかと連帯した取り組みがあってもよいのでは。 ・生徒を肯定する指導のおかげで、生徒が変化してきたように思う。 ○進路指導の状況について ・46 期、47 期とも卒業数が入学時よりずいぶん減っている。進路実績だけでなく、生徒の継続率も課題ではないか。 ○人権教育の状況について ・人権教育をこのまま進めてほしい。自分が大事にされているから他人も大事にできている。 ・文化祭で P T A としても取り組みをしたい。 ・11 月の四条フェスティバルに、野崎高校の生徒にぜひ参加していただきたい。 ○広報活動の状況について ・野崎にしかない「野崎の魅力」を発信できたら良い。たとえば、太鼓などで有名になっている卒業生もいる点などを発信すべきである。 ・いろいろな学校含め、校則について考えることは多いが、野崎は生徒を縛りつけずに指導できているところがいいと思う。 第 2 回（12 / 6） ○第 1 回授業アンケート・魅力化アンケートの結果と傾向について ・授業アンケートは好評、生徒の満足度が入学者数増加として実を結べば良いと思う。 ・家庭と学校と一緒に協力するから意味がある。保護者の影響力は大きいので PTA と連携した学校の取組みをみんなで考えていきたい。 ○本校の通級指導について ・最近学校とは何かを考えることがある。言葉をどう使うのかなど、学校は人間関係づくりを学ぶ場であると思う。 ○広報活動の状況について ・最近の中学生たちの傾向から、自由度の高さがアピールになるのではないか。 ・昨年度から私立高校が人気になってきた。通信制高校なども増加傾向。その流れはしばらく続くと思われる。 ・地元の中学校と高校はお互い歴史があり、野崎高校と深いつながりがある。寄り添ってくれるイメージがある。 ○その他 ・校長が教員や生徒に対して否定的なこと言わないから学校の雰囲気良くなっている。 第 3 回（2 / 10） ○居場所事業・広報について ・最近の教育はタブレットを用いるなど、先生の出番が少なくなっているように思う。その影響からか、人との会話が苦手になっている生徒が多い。その中で、相談できる先生がいるということは生徒の居場所づくりにもつながり、野崎高校のアピールポイントになるのではないか。 ○生徒支援について ・学校の取り組みと家庭教育の連携が大切。親の立場としても学校とともに子どもを社会に送り出していければと願っている。 ○広報について ・コロナの影響もあると思うが学校が閉鎖的になっていると感じる。地域の人や保護者と学校がつながる機会を増やしてみてはどうか。 ・本日野崎高校の授業を見学したがとてもよい雰囲気であった。生徒募集では苦戦しているが明るい兆しを感じた。 ○地域連携について ・行事や授業見学などをオープンにして地域の人や保護者と生徒がつながっていくことが、生きる力の育成や学校自体の魅力にもつながるのではないか。

望したコースや選択科目に関心を持っているー16. 8P」「人権や命の大切さについての教育が行われているー5. 4P」 (5) 考察 ・生徒指導において、カウンセリングマインドを持ち、本校の強みである「一人ひとりを大切にする」教育を様々な場面で教職員に伝え教員に心を開く生徒が増えたように感じている。また、学年団の先生に対しては「生徒が安心できる温かい学年を作る」ことをお願いしたことで担任を中心に生徒からの信頼が厚い担任団を構成することができた。結果として全体的に学校に対し肯定的な意見が増えたと考えられる。 ・生徒会主担教員が生徒に寄り添い、生徒のやる気をうまく引き出すことで生徒会活動が活性化した。結果として体育大会や文化祭などの学校行事に対し、肯定的な意見が上昇したと考えられる。 ・小中学校時に不登校を経験した生徒が本校の取組みや授業などで成功体験を積み重ねることによって学習意欲が湧いてきた時に、現状よりさらに全員を授業に集中させる手立てや生徒に学力に見合った課題についての取組みを構築する必要がある。	
--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 5 年度値]	自己評価
1 生徒の自己実現を最大限に支援する学校づくり	(1) 生徒の「学ぼうとする力」を育成する。 ア 教員の授業力を向上させる。	(1) ア・校内における教員相互の授業見学、初任者研修・10 年経験者研修等による公開授業・研究協議の実施。	(1) ア・校内で年間 1 回の公開授業・研究協議を実施。[4 回実施] ・生徒授業アンケートで①「興味関心」②「知識技能」の回答ポイントを前年度より向上させる。 [①3. 22・②3. 23、満点は 4. 0]	(1) ア・教職員相互の授業見学機会「OPEN CLASS」を設定し、大東市の中学校にも案内を行った。本校教員の 8 割の教員が相互の見学を実施、中学校の先生方にも見学いただけた。(○) ・生徒授業アンケート ①「興味関心」R 5 : 3. 22 → R 6 : 3. 29 (◎) ②「知識技能」R 5 : 3. 23 → R 6 : 3. 32 (◎)
	イ 外部人材の積極的な活用と。生徒支援	イ・SC・SSW・CC・居場所スタッフ等外部人材を積極的に活用し、連携しながら生徒の自己実現を支援する。 ・図書室を授業や居場所カフェなど生徒の活動の場として、積極的に活用する。	イ・外部人材の積極的活用 SC35 回[13 回] SSW40 回 [40 回]CC14 回[14 回] ・居場所カフェの実施回数を昨年並みに維持する。[19 回]	イ・外部人材の積極的活用 SC38 回[35 回] (○) * 重点配置校 SSW35 回 [40 回] (○) * R 7 拠点校応募 CC 6 回[14 回] (△) ・居場所カフェの実施回数 24 回[19 回] (◎) 平均参加者数 R 5 : 14. 6 人 → R 6 : 25. 3 人
	ウ 本校生徒にとつての「わかる授業」「できる授業」を行う。	ウ・「わかる授業」「できる授業」をめざし、きめ細かな学習指導を行うための教員研修の実施や教材等の情報共有により、授業形態や授業方法の工夫改善をはかる。	ウ・生徒向け学校教育自己診断の①「授業は分かりやすい」②「授業にまじめに取り組んでいる」について、①肯定的回答率を①70%以上・②80%以上とする [①71. 0%・②76. 1%]	ウ・①「授業は分かりやすい」 R 5 : 71. 0% → R 6 : 75. 7% (○) ②「授業にまじめに取り組んでいる」 R 5 : 76. 1% → R 6 : 80. 5% (○)
	(2) 生徒一人ひとりの進路目標を実現する。 ア 3 年間を見据えたキャリア教育の計画と実践。	(2) ア・本校の実情に対応し、3 年間を見据えたキャリア教育の計画と実践に取り組む。	(2) ア・就職内定率 100%、理由なき進路未決定者 0 名をめざす[98. 0%と 1 名]。 ・生徒・保護者向け学校教育自己診断の「きめ細やかな進路指導がなされている」について、肯定的回答率を生徒・保護者ともに 80% 以上にする。[生徒 78. 0%・保護者 80. 8%]	(2) ア・就職内定率 100% 理由なき進路未決定者 23 名 ・「きめ細やかな進路指導がなされている」 生徒 R 5 : 78. 0%→R 6 : 81. 4% (○) 保護者 R 5 : 80. 8%→R 6 : 86. 4% (◎)
	イ 生徒の進路意識の向上を図る。	イ・地元企業・各種企業団体と協力した職場見学・インターンシップを実施する。 ・大学・短大・専門・専修・各種学校等と協力した学校見学や体験入学の実施。 ・各種業者による体験セミナー等に参加する機会を増やす。 ・生徒が各種検定試験 (①漢検②英検③ワープロ検定④数検⑤時事検定⑥情報処理技能) における資格取得をめざすことで進路意識の向上を図る。	イ・以下の活動について昨年度の実績を維持する。 ①職場見学[学校幹旋就職希望者 1 人 3 回] ②大阪産業大学見学会 [20 名] ③職業体験セミナー [2 年生全員] ④インターンシップの実施[6 名] ・各種検定試験の受験者と合格者を昨年度より増やす。 [合格者数/受験者数は、①漢検 12/57、②英検 0 / 2、③数検 6 /15、④ワープロ 8 /13⑤時事検定 1 / 1 ⑥情報処理 7 /11]	イ①職場見学[学校幹旋就職希望者 1 人 3 回] (実施時には教員の引率を必須) (○) ②大阪産業大学見学会 参加希望者がいなかったため実施せず (△) ③職業体験セミナー [2 年生全員] (○) ・教育産業の主催する校外の職業体験セミナーに参加していたが、会場到着時には予約が満員になっていることや本校生徒に見合った支援が効率的にできないことから、来年度は校内において類似の催しを実施する予定。 ④インターンシップの実施 3 名 (△) ・①漢検 0 / 0、②英検 0 / 1、③数検 1 / 4、④ワープロ 5 / 9 ⑤時事検定 0 / 0 ⑥情報処理 5 / 6 (△)

府立野崎高等学校

3 地域としつかり連携して生徒を育てる学校づくり	(1) 各種地域連携行事に、本校生徒・教職員が今後も継続的に参加する。 (2) 本校が中心となった地域連携行事を企画・実施。 ア 近隣諸学校園の児童生徒と本校生徒の交流 イ 近隣諸学校園の教職員と本校教職員の交流 (3) 広報体制を確立する。 ア 本校ウェブページの充実。 イ 中学校への広報活動の充実。	(1) ア・だいとう森づくりクラブ（里山ボランティア）地域教育協議会、ふれ愛教育協議会、中小企業同友会等の交流・協力関係を今後も維持する。 イ・大東市教育委員会と連携し、交流事業を実施。 (2) ア・近隣諸学校園の児童生徒と本校生徒が交流する行事、部活動、授業等を設定する。 イ・近隣諸学校園の教職員と本校教職員による、合同研修や研究授業等を実施。 ・近隣の中学校と「合同部活動」を実施し、本校生徒・教職員の魅力を発信する。 (3) 本校生徒の活動の様子や学校の取組みを積極的に発信する広報体制を確立する。 ア・本校ウェブページの学校ブログ等を定期的に更新することで、最新の情報を生徒、保護者や地域住民に伝える。 イ・中学校（生徒・保護者・教員）への広報活動を充実させることで、本校志願者の確保に努める	(1) ア・地域連携事業に教職員が参加できるようにし、生徒の参加を促す。 イ・大東市教育長と生徒会役員の意見交換会への出席、大東市地域部活動メディア部へ生徒会役員の参加。 (2) ア・本校教員による出前授業 1 回[1 回]。 イ・緑風冠高校との合同人権研修を年 1 回実施[1 回]。 ・大東市、市内中学校、大阪産業大学と「合同事業」を実施。 (3) ア・校長ブログ、学校ブログを合わせ、更新を平均週 4 回以上（約 200 回）行う。[2 月末時点 202 回更新] イ・本校生徒による出身中学校訪問の実施。[20 名] ・出願者数を昨年度より増加させる。[142 名]	(1) ア・中小企業同友会との連携懇談会を本校が主体となり実施。(2/5 実施済み) ・北条地域教育協議会を本校にて実施。本当の教育理念について説明会を実施。(11/26 実施済み) ・ふれ愛教育協議会の会合に教頭が出席 ・四条地区フェスティバル (11/9) にダンス部が出演。同イベントの盛り上げに寄与した。(○) イ・文化祭にて生徒会役員の発案により大東市のマスコットキャラクター「だいとん」を招致。その様子を大東市広報誌に掲載していただいた。 ・大東市中学校教員向け公開授業を実施。(○) (2) ア・中学校からの出前授業の要請がなかったため、本校教員による体験授業(ミチャル)を代替案として、1 回実施 (○) イ・緑風冠高校との合同人権研修を年 1 回実施 (○) ・「のざき BBS」の立上げ 30 回の実施 (◎) (3) ア・SNS を新たに立上げ、校長ブログ 30 回、学校ブログ 141 回、SNS214 回、合計 385 回更新。(◎) ・周辺市教育委員会及び中学校を 21 件訪問。中学時不登校生徒の現状や生徒の異動に関して情報提供を行った。 ・学校パンフレットの刷新。 イ・本校生徒による出身中学校訪問の実施。[29 名] (◎) ・出願者数 101 名 (△)
4 教職員の働き方改革推進	(1) すべての教職員が担当業務についての必要性と効率化を常に意識する習慣を持つ。	(1) ・管理職、首席、分掌、学年、各種委員会、事務室等の立場から業務の見直しを行う。 ア・学校閉庁日の拡大と全校一斉退庁日の設定	(1) ・教員一人平均の月当たり時間外勤務時間について、前年度より減らす。[25.4 時間] ア・全校一斉退庁日(水曜日)を設定し、定時退庁日の増加を促す。夏季冬季ともに 6 日以上为学校閉庁日を設定する。	(1) ・教員一人平均の月当たり時間外勤務時間 18.4 時間 (12 月時点) (◎) ア・夏季冬季合わせ学校閉庁日を 12 日設定。(○)